

平成23年度第2回生駒市ごみ有料化等検討委員会  
会議録

平成23年4月25日(月) 午後1時30分～

生駒市清掃センター

【出席委員】 浅利委員長、三木副委員長、藤堂委員、小林委員、藤尾委員、樽井委員、安原委員、高森委員、石川委員、筒井委員、相川委員、公門委員、奥田委員、濱田委員、横井委員、松本委員

【欠席委員】 中西委員、山田委員

【事務局】 森住専門委員  
奥谷生活環境部長、中谷環境事業課長、辻中環境事業課長補佐、大窪事業係長、竹本管理係長、鳴川管理係員、木戸衛生処理場係長

【委託事業者】 生駒市衛生社、関西メタルワーク

1 開会

傍聴者確認 0名

事務局：本日はお忙しいところ、第2回ごみ有料化等検討委員会にご出席いただきありがとうございます。第1回会議の会議録についてですが、会議録要旨として事務局でこのように作成しました。

公開する会議録はこの程度までまとめたものでよろしいか。

委員：同意する旨の応答。

事務局：また発言された委員のお名前についてですが、委員長、副委員長以外の委員の方はそれぞれのお名前を記載せず、「委員」としておりますがこれでよろしいか。

委員：同意する旨の応答。

事務局：第2回の会議録以降も全委員のみなさまに事前に確認いただくか、または委員長・副委員長及び各回の署名委員2名の方のあわせて4名に確認いただくかどちらがよいか。

委員：できれば全委員が確認したほうがよいのではないかと思います。

事務局：全員の方にメールもしくは文書でお送りして、それぞれご自分の発言について

確認していただくというようにしたいと思います。

委員長：毎回前回の分を用意していただいてその場もしくはメール等で目をとおしていただいて、期限を設けてご意見がなければそれで確定するというかたちでどうですか。

事務局：分かりました。

事務局：今日お配りしております第1回の会議録につきましては第3回の会議までにご確認いただいて、修正箇所等ありましたら事務局までご連絡をお願いします。次に本日の会議の会議録署名委員につきましては、名簿順で藤尾委員と樽井委員となりますのでよろしくお願いします。

## 2 案件

### (1) 生駒市清掃センターの施設見学について

事務局：施設見学の前に、市職員から施設の概要について説明させていただきます。

事務局：よろしくお願いいたします。清掃センターは平成3年に竣工いたしましてごみの焼却を進めております。詳しい説明は今からビデオを見ていただきたいと思います。

#### ○施設案内ビデオ上映

事務局：ごみは燃やすことでまったく何もなくなる訳ではなく、機械から取り出したら細かい灰となります。これを固めた状態にしてダンプカーに積み込んで大阪湾で埋め立て処分をしております。このあと現地に移動していきたいと思います。

#### ○施設内見学

事務局：何かご質問はありますか。

委員：停電などの場合はどんな風になるのですか。

事務局：停電になると、空気の送りこみも止まります。基本的に燃やすということは空気を送りこまないと燃えませんので一気に焼却が自然と止まってしまいます。

早い段階で電気が復旧しましたら、残っている熱を使ってすぐに立ち上げることができます。冷めている状態ですと灯油を使って温度を上げていきまして600度くらいまで確立しまして、ごみを連続的に入れることによって連続燃焼できるようになっています。福島原発のような化学的な反応は起こりません。

委員：廃熱利用による発電などは考えられないのですか。

事務局：検討したことがあります。発電をする場合ボイラーを設置しまして、さらに別のところにタービンなり発電機が必要になってきます。一番ネックになりましたのが、ボイラーを付けるというのが、焼却炉をもう一機付けるのと同じくらいの大きな構造物を持ってこないといけない。そうすると基礎からやりかえることになります。既存の設備を使って発電するというのは難しい状況にあると考えます。

委員：せっかく出た熱を有効活用して、しかもそれを売電して、市の財政を潤すということを考えていいのではないかと思う。

事務局：検討できればと思います。

委員長：施設全体のエネルギーバランスがどうなっているかということを用意してほしいです。

事務局：電力使用量など実際のデータがそろっております。

委員長：もう1点、水銀は年間何回測定していますか。

事務局：水銀は今のところは測定をしていません。

委員：この施設についてはどの程度の震度まで大丈夫ですか。

事務局：震度5くらいです。プラントとしての安全は確立されているという考え方をできると思います。

委員長：生駒市さんではハザードマップはありますか。

事務局：あります。

(2) 生駒市のごみ収集運搬の現状について

委員長：生駒市のごみ収集運搬の現状について事務局から説明をお願いします。

事務局：現在生駒市では、不燃物・可燃物の収集を委託しております。まず、不燃ごみについて収集運搬を委託しております関西メタルワークから、生駒市のごみの収集の現状について説明していただこうと思います。

○委託業者からの説明  
(不燃ごみの説明)

事務局：つづいて可燃物の収集委託業者の生駒市衛生社から引き続いて説明をしていただきます。のちほどまとめてご質問の時間を設けたいと思いますので、よろしくをお願いします。

○委託業者からの説明  
(可燃ごみの説明)

事務局：生駒市衛生社、関西メタルワークに、質問等あればよろしくお願いします。

委員長：有害廃棄物は、どうかたちで分別収集されて、どういうふうにされているのかというのがもし分かれば教えていただきたいです。

関西メタルワーク：有害ごみにつきましては年4回収集させていただいております、蛍光灯と電池を同じ袋に入れて出していただきます。蛍光灯の直管と、丸管は、蛍光灯の粉砕機で粉砕いたします。電球については電球だけをドラム缶に詰め込みます。電池は電池だけをドラム缶に詰め込みます。そして、業者に渡すという作業です。

委員長：何かほかにございますか。

委員：カラスなどがネットの目の間からつついていったごみなどでこぼれているものがあるけれども、全然回収されていない。市のほうにお願いを申し上げました。そうすると契約上収集事業者は後片付け等をしなくていいということになってい

るということをおっしゃっていました。回収業務ということであれば、ネットの重しとしておいてあった石ころが道路の真ん中に転がっているような状態に対してもう少し配慮があってもいいのだと思います。そして、ほうき、ちりとりでやむをえずこぼれたものについて拾っていくとかそういう配慮をするべきだと思う。

委員長：今の市からの業務委託内容についてのお答えと、できれば衛生社さんのほうで何人くらい勤務なさっていて、どういう教育をなさっているか教えていただけますか。

事務局：ステーションのごみにつきましては地元で管理していただくというのが基本でございます。色々な格好で、カラスの被害にあわないようにお願いしております。地元の皆さんで管理をお願いしたいです。ただ生駒市衛生社のほうでも次の収集時間もあるのでかなりの時間をかけて、ごみ一つなくなるまでというまではいきませんが、できるだけそこで散乱しているものについてはかき集めるようにしています。

生駒市衛生社：委託収集の人員が約30名です。教育は徹底していたつもりなのですが、実際にできていないということに関してはすみませんでした。以後徹底させていただこうと思います。ごみのちらかりもできるかぎり収集をするようには徹底していたのですが、今後は気をつけてできるかぎりきれいに収集させていただきたいと思います。

委員：よろしく申し上げます。

委員長：市民と一緒に業者の方、行政の方と努力してこの業界を変えていければいいと私も非常に思っていますので、今後とも引き続き厳しく市民目線でもお願いしたいです。市民と両方ともがやっぱり気をつけてきれいにするっていう姿勢が大事だと思います。他にご質問ありませんでしょうか。

委員：私の住んでいるところではごみ当番が収集車の来る前にネットをはずして、収集後は当番が片付けると決っています。

委員：収集側、市のほうでも気をつけていただくと同時に、排出側の出し方が悪いがために、荒らされるっていうこともありますので、そちらのほうは自治連合会としても各自治会によびかけて、市民のかたに出し方についても守っていただく

ようにというのでも徹底したいと思います。

委員長：ありがとうございます。

委員長：やはり地域の方との兼ね合いというのは非常に重要だと思います。ぜひ両方からうまくやっていただければなと思います。ありがとうございます。他ありますか。

委員：ペットボトルですが、私たちはリングやキャップを取り外してから出している。キャップなどは一まとめにすれば関西メタルワークのほうで、寄付若しくは回収の際に集めていただけると聞いた。他の地域では市などで集めているというのを聞くのですが、市としては表立って回収とかの啓発をされる予定はあるのかどうか。また、事業系でたとえばコンビニなどの店頭でペットボトルの回収などをされているのは飲んだものをそのまま放り込んでいるが、そういうのは洗ったりラベルはがしたりとかいうのはどうされているのかということをお聞きしたい。

委員長：関西メタルワークで集められたエコキャップについても、もし情報があればよろしくをお願いします。

関西メタルワーク：エコキャップについては、多分生駒市衛生社も行なっていますね。

生駒市衛生社：はい。

関西メタルワーク：エコキャップはルール違反でごみに入ってきた分を、燃やすのはもったいないという発想からため始めた分です。特に団体からいろいろ集めて持っていくという活動は今のところしていません。ただご要望があれば一緒に持っていくことは可能です。次に事業系のペットボトルですが、事業系につきましては収集しておりません。ただ衛生社さん経由で入ってくる分がありますが、きれいなものはリサイクル可能です。また、ラベルにつきましては全部カッターナイフではずしております。

事務局：行政としましてキャップの分別回収はやっておりません。生駒市としては今年の10月から容リプラということで全市収集をしていこうと思っております。キャップについて、ペットボトルはペットボトルなのですがキャップも容リプラに入ってきますので、そちらのほうで行政回収の中に入ってくるという形で

す。今新たにキャップだけを集めてということは行政としては考えておりません。生駒市衛生社もキャップについて取り組みをされておられますので、紹介させていただきます。

生駒市衛生社：生駒市衛生社は、幼稚園、小学校、中学校、高校に呼びかけてエコキャップ活動を実施しております。生駒エコキャップ推進活動ということでキャップ400個につきワクチン一人分ということでほぼ幼稚園、小学校で今実施しています。

委員長：ありがとうございます。

専門委員：事業系のペットボトルは容器包装リサイクル法の網にかかっていないです。家庭系だけが網にかかります。そんな問題があるので事業者の方は自主的に実施という理屈になります。スーパーとかコンビニが集めている分は、その責任でやっているのです。

委員：ペットボトルのキャップについては、今そのような良い活動がありますが、プラスチックの分別収集によってキャップの分別活動が活かされなくなるのではないかと思います。よって、幼稚園・小学校だけでなく、市内等で回収についての啓蒙をされたらどうかと思う。ペットボトルは非常に多いのでごみの回収に際してキャップと他のプラスチックが一緒にならないようにしていけばよいと思う。

委員：プラスチックの分別として集められたペットボトルのキャップは、別の意味でリサイクルされる方向にいくわけで、ワクチンとかに使うためにリサイクルしたいというのであればちょっと趣旨が違うと思う。生駒市が方針としてやりますっておっしゃるのであれば、協力する人はたくさんいらっしゃるかとは思いますが、市のごみ処理とは視点が違います。ワクチンにするというのであれば、そういう志を持った方が自主的に回収システムを立ち上げていただいて、市民に呼びかけてそれを集めるという方式をとっていただくのが一番いいように思います。

委員長：ペットボトルのキャップはここへ行ってこういう議論になります。また、学校や幼稚園単位で競うように集め始めて、無理に子どもがペットボトルを買ってしまうというかたちで、実際にはペットボトルの消費が上がる方向に動いているのではないかという声もあつたりもしますので、ちょっと冷静に

なるのがいいのかなと思います。まずはペットボトルを減らすほうがごみ削減になると思いますし、ワクチンを本当に送りたいのであればその分ペットボトルを買わずにお金を回したほうがいいと思います。また、ワクチン用として集められたペットボトルのキャップがどういうふうにもリサイクルされているかをよく勉強してから他の方にもお勧めされたほうがいいのではないかと考えております。生駒市が集めたプラスチックをどう委託してどうリサイクルされるのかということと、併せて見ていただければと思います。

委員：ごみ袋が黒から透明に変わったときにごみがすごく減ったと聞いたことがあるのですが、その後減っているのか戻っているのか影響はどうですか。

生駒市衛生社：ほぼ横ばい状態です。

委員：透明になったからといって削減した要因にはあまりなっていないと思われませんか。

生駒市衛生社：そうです。

委員長：ほか何かございませんでしょうか。

専門委員：収集の体制について、集積所の 4000 ヶ所というのは生駒市衛生社が収集している集積所数か。関西メタルワークと合わせた集積所数でしょうか。

生駒市衛生社：4000 ヶ所というのは燃えるごみのステーションなので、生駒市衛生社のみです。関西メタルワークはまた別のステーションでの回収です。

専門委員：燃えるごみの家庭系委託事業者の家庭系は 1 社だけでこの 4000 ヶ所というのはすべて生駒市衛生社の箇所ですね。

生駒市衛生社：はい。

事務局：最後になりますが今年の 10 月から家庭系の収集ルートを変更する予定です。ルート変更については午前中からの収集になります。交通量の問題もございません。途中でパッカー車が満タンになればまずごみを捨てて行ってまた収集に行くという時間的なこともございます。自治会から大体うちのごみステーションは何時ごろ来るのかという問い合わせもお聞きしていますが、当日のごみの量に応じて余裕のあるとき、ないとき、雨のとき、渋滞しているときがあるので、



各地域の方のご協力もやっぱりお願いをせざるをえない部分がある。

委員：1回目取りに来ても満タンになったとして積み残しがある場合もあるのですか。

事務局：1つのステーションでの積み残しはしないように、1つのステーションの分は全部取ってこれ以上は入らないなということであれば捨てるに行く。また、剪定される時期が、ごみの量が一番多い。こういったことからなるべくスムーズにいくようなかたちのルート変更をこの10月までに考えていきます。10～15分おくれただけで電話かかってくる現状もありますが、ご理解よろしくお願ひします。

委員：燃えるごみの収集方法のなかで段ボールと古紙を分別しながら収集となつていますが、これは市の委託条件となつているのか、生駒市衛生社独自にやっておられるのか、この説明をお願いします。

事務局：今年6月から燃えるごみ袋のなかに新聞・雑誌等を入れないように分別してステーションに出していただくとか、あるいは集団資源回収に回していただくということについて今後自治会、自治連合会も一緒になって説明などに行かせてもらおうと思つています。現在紙については契約に分別して収集することについては入つてはおりません。生駒市衛生社独自に分けてステーションに出ている分は燃やしたらいけないと思ひから車の上や横、後ろや座席のほうにおいて、資源化のルートに乗せているという現状です。

専門委員：全市を一つの業者がやっておられて独占というのは悪いと思われまふけれども、必ずしもそうでなくて、自主的にやっておられる部分がかかなりあります。キャップの問題も自主的にやっておられます。まごころ収集も行政から委託されるはずですが、委託料がほぼない状態でやつていると思ひます。ご説明いただけますか。

事務局：まごころ収集は現状ではガソリン代だけということです。

委員：その家に行くのにかかるガソリン代ですか。

事務局：きちつと量つたわけではないがその程度で回つていただけてます。利用者の方からはありがたいと声をいただけております。

委員長：費用等についてはこれから有料化を検討するうえでできるだけ正確に把握する必要があると思うので大変な作業ですが、廃棄物に関する会計のシステムなども利用して努力をしていければと思っております。それから今後ごみや有料化について一緒に勉強するために疑問点やご意見をまた集めたいと思っております。私と先生それから事務局のほうで資料をつくって説明できるようにしていきたいと思っておりますので、どうぞ気楽にアイデアをお寄せいただければと思います。ここで所用のため退席させていただきます。

#### ○委員長退席

副委員長：委員長が退席されましたので引き継がさせていただきます。何か聞いておきたいというようなことがございましたらどうぞ。

委員：有料化といっても、ごみ減量をしていくのは生活スタイルそのものを変えていくような大きな取り組みでないと難しいと思う。街に落ちているごみは手を加えれば商品なのです。そうすると業者の方はどっからでもごみを拾う。そうすると街中もきれいになる。また、いろいろな就労の場にもなる。ごみの商品化をするという概念をうえつけないことには、動作が結びつかないと思います。それによって有料化のしくみがいらなくなると思います。

委員：この委員会は有料化はじめにありきじゃない。なぜ有料化をしようと市が主張するのかです。有料化したって絶対ごみは減るとは私は思っておりません。金があったら余計出してやりたいです。

委員：この議論を最初のスタートに立って、どうしたらごみを減らせるのかという議論から、進めていくようにして欲しい。

委員：とりあえず市民がちゃんと分別して出してくれたら業者の方も効率がいいという部分があると思う。有料化にしたら分別しないようになり、ごみ当番もなくなるかも知れない。

委員：有料化しないでものを大事にする方向に持って行ってほしいなと思う。有料化よりも、ものを大切にすることを皆にPRするのが大事ではないかと思う。

副委員長：研究者のなかでも、有料化により当初は減ってもリバウンドするとか、効果について疑問が提示されていることも事実です。統計的に全国のデータで検証

すると、有料化している自治体のほうが排出量一人あたりで少なくなっていることも確かめられたりもできている。経済学という学問の立場は、人の善意に期待しない。スローガンだけで人は動いてくれないとの考えで、システムとして誘導するようなインセンティブをもたせるようなシステムづくりということで有料化を主張している。

委員：有料化する前にもっとしないといけないことはあると思っている。剪定のごみもごみとして出すしかしくみがないからごみになっていたというものがたくさんあると思う。品目をしくみ化してごみにしなくてもいいものをまず作ってしまえば、有料化する前にごみは減っていくと思う。そのことを検討せずに有料化ということに先に走ってしまうのはちょっと早すぎると思います。

委員：規模や地形などが生駒市と同じくらいの他の自治体での袋を有料化などの実例を先生方のほうで教えてもらったら、非常に参考になる。だから有料賛成、有料反対の問題じゃなくて、まず参考になるようなところの実例なんかを教えてもらえればと思っています。

委員：育児サークルのリーダー育成の会で環境フリーマーケットではできない育児用品中心のフリーマーケットを年1回4年間つづけてやっていたが、すごくたくさん集まっていた。カテゴリに分けて回収のしくみやほしい人と要らない人が集まれる場があれば、非常に効率よくものが回っていくというのを目の当たりにしてきた。環境フリーマーケットも長年やっているが、一部どう見ても毎回業者みたいな方が来て、ごみじゃなくて商品を売りにきている。生駒市でカテゴリごとに分けた回収とほしい人がそれをとりにいくというのがたとえばリレーセンターとかでできたらいいと思う。有料化の前にまずやるべきことがあるのではないかと思う。名前が有料化等検討委員会になっているが、有料化等じゃなくて、有料化&減量化委員会にしたらどうかと思う。検討する対象が、まず減量化ありきなんじゃないかなと思う。まず減量ができなかつたら有料化するよっていうのを市民に広く告知するよう広報で減量化のための啓蒙のページが毎掲載せるとかそういったことを検討していただけたらどうかと思う。有料化しますといきなりではなくて、減量化のために皆努力しましょうでないとう有料化は納得できないと思う。

委員：有料化を検討するのは地球温暖化阻止のためにするとか、漠然としたことでいっても納得しない。ごみを少なくするという話なのか、市の財政のためかはっきりして欲しい。

委員：市から出ている書類、半減化プランにしろ、いろいろ見ても、有料化するのは市民の意識を向上させるためだと書かれておるわけです。市民の意識を向上するために有料化するのはおかしいと思う。

副委員長：それではご質問いただいた点などについては今後委員長から連絡がまわることになっていきますので、そこでご質問、ご意見をいただきまして、それらともあわせて事務局と委員長ともうちょっと話をさしていただいて、次回以降内容等をつめさせていきたいと思えます。

専門委員：生駒市は乗り遅れていると思えます。何でもそうですけどどこもしていないようなことを生駒市がするのが生駒市の力です。間違ったらまた引き返すくらいで、市長が希望していることだったら、賛成してやっていくのも一つの方法だと思えます。成功するのは民間なので、自治会ですと色々出来ると思えます。しかし、市が行なうとできないかなと思えます。

委員：再利用できるところは再利用で大いにして、減量化につとめたうえで、なおかつ有料化にもっていくというなら、賛成するかもしれません。

委員：まず半減化するというのをどうすればできるかということ議論すべきです。さきほど市長の言葉に触れていましたが、市長さんもはっきりとゼロに戻して考えてくださいということをおっしゃっているわけです。何も配慮する必要はないと思えます。

副委員長：ちょっと時間もおしてまいりましたので、まだ皆さんご発言足りてないかとは思いますが。

委員：委員長と副委員長にお願いしたいのは、今の意見をまとめていただいて、どういう段階を踏んで議論していけば、みなさんが納得できるような形で進めていけるのかのプランニングについてお願いしたいと思えます。

副委員長：はい。

専門委員：お金問題の視点で勉強をしたほうがいいと思えます。この現状を具体的な数字で知ったほうがいいと思う。ごみ処理費が上がっているのは、大半が公害対策費です。その対応する機械について設置費がすごく高いです。ここは窒素酸

化物とる対策はしていますか。

事務局：窒素はしてないです。

専門委員：窒素酸化物も問題になり、その装置はすごく高いです。どこに金がかかっているか皆が知ったほうが話も進むと思います。

委員：過去の設備投資されたのが、10～20年前です。耐用年数はどれくらいだとか残存価値はどれくらいで評価なのかは、またお邪魔して質問させていただきたいと思っている。

## 2 案件

### (3) その他

委員：日本の焼却場では燃やすのに家庭から45リットル、90リットルの袋で出されているのをそのまま焼却しているが、信用しすぎていると思う。生駒の市民は分別が絶対レベル低いです。分別の約束事は約束事で守らないといけない。

副委員長：ご発言足りない方は、また委員長からのメールでご意見、ご質問をいただけたらと思います。

委員：収集の紙にはマグネットに関しては何か書いていましたか。

事務局：不燃物には特にマグネットと書いてないです。

委員：マグネットを意識せずに捨てていたが、周知徹底されてないので、早急にやったほうがいいと思った。

事務局：あまり盛り込んだら細かすぎて、全体を読んでもくれないとも思う。

委員：市の焼却施設で非常に困っているのなら広報とかに書いてみたらどうですか。意識ある方だけでも、出さなければもうちょっと減ると思う。

委員：言われて気がついた人も多いです。

委員：焼却炉にへばりついたのをとるのは人間が手でとるのですか。

事務局：ヘラを使ったりして取ってもらったり、ローカルな方法でとっています。

事務局：次回の予定ですが、第3回は5月23日月曜日、1時から市役所の4階大会議室です。

副委員長：そうしましたら4回目は6月27日月曜日の1時からということよろしいですか。

事務局：場所は市役所の会議室の空き状況をみなければわからないのでまた3回目のときに連絡します。

この議事録が正確であることを証するため、議事録署名人はこれを署名する。

平成 年 月 日

議事録署名人

議事録署名人